

社会から期待され、 社会に貢献する学部を目指して

応用生物科学部 学部長 杉山 誠



各務同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は同窓会活動に對しまして格別のご高配を賜り、深く感謝申し上げます。学部長を拝命して二期三年目を迎えました。大学を取り巻く厳しい情勢のなか、力量不足の感は拭えませんが、引き続き、学部の教職員、そして同窓会の皆様のご協力・ご支援をいただきながら学部の運営を図る所存であります。よろしくお願い申し上げます。

今年五月に法制化された一法人複数大学制度により、来年四月に本学と名古屋大学は経営統合することが決まりました。国立大学法人・岐阜大学は、新たに国立大学法人東海国立大学機構・岐阜大学としてスタートいたします。この法人統合にあたり、国内外の農学に係わる様々な課題・問題を解決するために提案した名古屋大学との連携による「農学の教育研究拠点構想」が、同機構の四つの重点施策の一つに位置付けられました。また、本学部が中心に進めてきた糖鎖研究の発展として「糖鎖生命コア研究拠点

形成」も重点施策の一つに選ばれました。法人統合を契機に、社会からの期待に答え、社会に貢献するための教育研究環境の更なる整備充実を目指したいと考えております。

全ての国立大学は、現在、第三期の中期目標計画期間四年目を迎え、次年度の中間評価の準備を進めています。この結果を踏まえ、続く六年間の第四期中期目標計画の策定に入ることとなります。一方で、少子化を受けて、国より国立大学の学生定員の削減の方向が示されました。これに伴い、教員削減も必至であり、これらが第四期の計画に盛り込まれると言われております。このような激動の時代にあっても、同窓生の皆様のご活躍もあり、前述のように自信をもって学部長として対処できることは本当に幸せであると感じています。

この三月には、二年前に工学研究科と連携して設置した自然科学技術研究科（修士課程）の初めての修了者を輩出することができました。また、四月より連合獣医学研究科の後継として共同獣医学研究科が発足し、鳥取

大学と共同で教育を行う共同獣医学専攻が立ち上がりました。このことにより、六年間の共同獣医学教育を受けた学生が大学院博士課程に進学する体制が整いました。

本年六月一日には、同窓生はじめ各界からも多数の方に参加いただき、盛大に岐阜大学開学七十周年記念式典が開催されました。支援いただいた同窓会の皆様に厚く御礼申し上げます。記念祝賀会では、本学部・中川智行教授の手による岐阜大学酒・多望の春「岐山」「曲阜」が乾杯酒として披露されました。この日本酒は、岐阜県食品科学研究所と岐阜県酒造組合連合会の協力のもと製造されたものです。現在、本学部でも二〇二三年の本学部創立百周年記念式典に向けた準備を進めています。祝賀会において、さらに洗練された日本酒「多望の春」で杯を高らかに乾杯したいと考えています。同窓生の皆様にも、どうか楽しみにしていただければと存じます。

昨年九月より本学部校舎の大改修工事が始まり、第一期のB棟改修が終わりました。続いてA棟の半分の第二期改修工事に入っています。学部全体が慌ただしく雑然とした雰囲気のうち、各研究室が待避しながらの工事のため、出身の研究室を訪ねる同窓生の皆様には、ご不快・ご不便をお感じになると思いますが、ご容赦のほどお願い申し上げます。第三・四期と順調に進めば、創立百周年記念式典の際には、綺麗になった学舎を見ていただ

る予定となっています。

全国農業協同組合連合会岐阜本部、岐阜県そして岐阜大学が連携して、美濃加茂農場に「飛騨牛繁殖研修センター」を設置するため、新たに二棟の畜舎が完成し、三月に落成式が行われました。さらに、現在、同研修施設の整備に向け増築改修作業を進めています。また、本学部B棟と渡り廊下で繋がる形で建築が進められていた岐阜県食品科学研究所が完成し、四月に盛大に開所記念式典が開催されました。野生動物管理学研究センターは岐阜県の寄附研究部門を中心に地域の鳥獣害対策の中核として活動してきましたが、特に今年は、岐阜県で流行が続く豚コレラの感染源であるイノシシの対策において存在感を示しています。農林水産省・山村活性化支援事業により推進してきた揖斐川町小津地区活性化プロジェクトでは、二月に揖斐川町地域交流センターにおいてシンポジウムを開催し、揖斐川町長の出席のなか、成果の発表とともに今後の地域活性化について活発な議論が行われました。

超少子高齢化時代を目前に、大学は極めて厳しい状況となっています。このような向かい風にあっても、社会に本学部の存在感を示し、活発に活動を進めることができるのも、同窓生のご活躍とご支援のお陰と深く感謝いたします。今後とも、同窓生の皆様より暖かいご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

各務同窓会報



岐阜大学

会長挨拶

各務同窓会会長 柵木 利昭



各務同窓会
会員の皆様におかれましては益々ご健勝で、ご活躍のことと拝察いたします。

私こと、さる六月二日の代表者委員会にて水野前会長の後を受け、同窓会長を仰せつかりました。私は、昭和三十九年先の東京オリンピックの年に農学部に入學、四十五年に修了し、お茶の水橋のたもとで神田川を満喫し五十二年八月東京医科歯科大学から農学部に出向してまいりました。平成二十一年三月の二度目の卒業後は、十年不破の関近くの山麓で安眠を貪っておりましたところを今回叩き上げられました。V大十六の七十四歳、もとよりカミソリではない浅学非才の身ではありますが、杉山 誠学部長、水野前会長はじめ皆様方のご指導、ご鞭撻により、微力ではありますがこの重責を果たしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

皆様ご承知のように、岐阜大学農学部・応用生物科学部の前身である官立岐阜高等農林学校は千九百二十三年大正十三年に各務野の台地に設置されました。各務野と大野（揖斐郡）と青野（大垣市）と合わせこの地は三野（御野）

と呼ばれ、壬申の乱（第一次関ヶ原の戦い）の後三野は美濃と書かれるようになった（所氏、諸説あり）。この美濃は美しい水の農とも

読め、少なからず我が農学と因縁を感じます。その後、岐阜高等農林専門学校は時代の要請に応じ、昭和二十四年国立岐阜大学農学部となり、昭和五十七年八月農学部は我が青春の地各務原を離れ岐阜市柳戸に新天地を求めました。

さらに、平成十六年には国立岐阜大学は国立大学法人岐阜大学となり、農学部は長年慣れ親しんで来た農から離れ応用生物科学部に改組されました。また、岐阜大学は二千二年度からは東海国立大学機構に名古屋大学と共に参画することになりました。たとえ各務原を離れ離農したと言え、農学部・応用生物科学部はこの百年岐阜高等農林の歴史と特色を生かし、食と命と環境を学び究め発信してきました。これからも地域活性化の拠点として、これを磨き上げ、揺るぎないものにしていくことになり

ます。日本はこの百年戦争、戦後復興、高度成長と石油にドップリ浸かった時代を駆け抜けてきました。が、少子高齢化が進むなど大きく変貌するこれからの日本には、脱石油の美しい水の農が益々求められると確信しております。

各務原から離れ、国立大学法人応用生物科学部になった平成十六

年の代表者委員会で、岐阜大学農学部各務同窓会は「農学部」を外して「岐阜大学各務同窓会」として、

新学部の卒業生が各務同窓会に入会しやすくし、伝統ある各務同窓会の名称を今後も末永く守っていくことが了承されました。

去る六月一日に岐阜大学七十周年記念式典が執り行われ、いよいよ二千二十三年六月三日に予定されている高等農林・農学・応用生物科学の百周年記念事業が本格的に動きだします。同窓生の皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

幹事長からのご挨拶

幹事長 石田 秀治



令和元年度
と2年度の2
年間各務同窓
会幹事長を務
めさせて頂き

ます。課程分子生命科学コースの石田（昭和57年農芸化学科卒…C大30）と申します。どうぞ宜しくお願致します。また、2年間の同窓会の幹事長と同時に、4年後に迎える100周年の担当（大学側）を4年間務めさせて頂きます。そちらの方もご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

幹事長を務めるにあたって、一言

ご挨拶申し上げます。

各務同窓会にとって最も重要な課題は、申すまでもなく支部の充実、特に、若手会員の支部への参加だと思えます。しかし、中々それが実現しない現状があり、その原因の一つとして学部や学科の改組があるのではないかと思います。小生が入学した時は6学科体制でしたが、その後4学科体制になり、応用生物科学部になってからは2課程と1（共同）学科体制になっています。その間、獣医学科は単独で継続していますので、他の学科は5学科が3学科を経て2課程になり、学科数としては半数以下になっています。その流れの中で縦の関係が薄れていったのかもしれない。

また、1学科や1課程の定員が増えたことにより、学科内の横の繋がりが希薄になっているかも知れません。しかし、生物資源生産学科、生産システム学科、生物資源利用

学科の1期生は平成4年に卒業されていますので、今年50歳を迎えられますし、また、応用生命科学課程（食品生命科学課程）と生産環境科学課程の1期生は平成20年に卒業されていますので、33歳にな

れることを考えますと、概算ではありますが、新しい学科や課程の卒業生は、全卒業生（各務同窓会会員）の約半分に相当するのではないのでしょうか？同窓会事務局としては、是非、この中堅、若手の会員の方々へのアプローチを積極的に進めて参りたいと考えています。

先にも述べましたが、本学部は、あと4年で創立100周年を迎えます。ぜひ、多くの会員の方に、100周年記念のイベント（式典や講演会、懇親会）に参加して頂き、改めて同窓の絆を深めて頂ければと思います。

皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和元年度各務同窓会代表委員会のご報告

標記の代表委員会が令和元年6月2日午前11時よりホテルリソル岐阜6階で開催されました。水野準人会長の挨拶の後、幹事長と幹事の紹介がありました。その後、石田幹事長が挨拶されました。ご来賓として迎えた大藤理事より、

ご挨拶ならびに岐阜大学の現況につ

いてスライドを使ってご紹介いただきました。

岐阜県職支部の熊崎氏を議長として選出し、議事を進めていただきました。議事としては、平成30年度事業・決算報告及び会計報告について、石田幹事長から事業報告、渡辺前会計幹事から決算報

各務同窓会報



告、並びに
松山監事から
監査報告が
行われました。
引き続き、令
和元年度事業
計画(案)を
石田幹事長
から、令和
元年度予算
(案)を清水
会計幹事
からそれぞれ
提案され、
承認していただき
ました。その後、
令和元年度岐阜
大学各務同窓会
役員(案)につ
いて水野会長
から提案され、
新会長として
榎木会員が選
出されました。
新会長に就任
された榎木新
会長が今後の
活動について
抱負を述べら
れました。以
上4件の議案
は全て無事に
承認されまし
た。

その他の議案
として、寄付
金決算報告及
び100周年記
念事業について
報告がありま
した。特に1
00周年記念
事業については
予算のことも
あるので、会
員の協力も進
め、成功させ
たいとの願い
があった。各
支部の状況に
関連し、各務
同窓会三重支
部が解散した
こと、及び各
務同窓会長野
野支部が設立
されたことが
石田幹事長
から報告

された。長野
支部の設立に
ついて、発起
人の坂本会員
から設立の経
緯などが説明
された。これ
らに関連し、
支部会の活
性化について
榎木会長から
お話がありま
した。今後、
より支部会
活動が活性化
できるように
様々なアイ
デアを出して
いきたいとお
話でした。以
上で議案は全
て無事に全て
承認されまし
た。

水野前会長
の退任にあたり、
その功績に
対して榎木
新会長から
記念品が授
与されました。
水野前会長
から挨拶を
いただきました。
続いて、名
誉会長である
杉山応用生
物科学部部
長から挨拶
をしていただき
ました。

代表委員の
皆様のご協
力のおかげ
で、代表委
員会を無事
に終えるこ
とができました。
続いて、同
会場にて交
流会が開催
されました。
石田幹事
長の開会の
挨拶に続き、
福井理事の
乾杯で開宴
となりました。
交流会では、
岐阜大学の
オリ



ジナル酒が
紹介されまし
た。水もお
米も酵母も
岐阜大学オ
リジナルで
ありつつ、
味も良いとい
うことで、
とても喜ば
れました。

交流会では、
北は北海道、
岩手県から南
は広島、高知
と代表委員
の皆様には遠
路はるばるご
出席いただき
ました。お礼
を申し上げます。
来年4月には
国立大学法人
の統合があり、
その先には各
務同窓会の1
00周年記念
事業がござい
ます。引き続
き、同窓会活
動にご協力
のほどよろし
くお願いいた
します。

は留守番電話)・Email: ob-abs@
gifu-u.ac.jp)よろしくお願いいた
します。

平成30年度 支部総会開催状況

支部名	期日	出席者
東京E科会	30.04.25	千家 正照 東京E科会と合同開催
東京E科現役会	30.04.25	千家 正照 東京E科会と合同開催
愛知県各務会・愛知各務会	30.05.12	千家 正照
愛知県高等学校教員	30.06.23	土井 守
岐阜県高等学校	30.06.23	杉山 誠、石田 秀治
石川県	30.07.07	松山 勇人
岐阜	30.07.08	土田 浩治
愛知県職員林務関係同窓会	30.07.21	向井 譲
愛知県職員農業関係各務同窓会	30.08.22	嶋津 光鑑
兵庫県	30.10.27	二宮 茂
江南	30.11.03	向井 譲
中濃	30.11.10	福井 博一
徳島鳴門会	31.01.19	石田 秀治
岐阜市役所	31.02.06	志水 泰武
東海農政水機構	31.02.06	平松 研
長野北信	31.02.23	柳井 徳磨
岐阜大学	31.02.28	会長 副会長

平成31年度岐阜大学各務同窓会役員

名誉会長	杉山 誠	
会長	榎木 利昭	(V大16)
副会長	正村 洋一郎	(F大25)
	伏見 知彦	(C大18)
	北川 精一	(V大18)
	安藤 敏行	(E大19)
	川島 光夫	(P大7)
	高橋 實	(A大13)
	平工 孝義	(A大25)
相談役	杉山 幹夫	(M1)
	新藤 秀逸	(SP21)
	中村 孝雄	(N大7)
	後藤 悦男	(V大2)
	水野 隼人	(C大15)

平成31年度幹事長・幹事及び監事

幹事長	石田 秀治	(応用生命科学課程)
幹事	(庶務・幹事長代理)	福士 秀人 (共同獣医学科)
	(事業)	前澤 重禮 (応用生命科学課程)
	(会計)	清水 将文 (生産環境科学課程)
		渡邊 一弘 (共同獣医学科)
監事		加藤 正吾 (生産環境科学課程)

各務同窓会報

平成30年度各務同窓会決算報告

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 会 費 会 金 費	2,350,000	1,604,500	△ 745,500
入 会 金 費	2,300,000	1,550,000	△ 750,000
年 会 費	50,000	54,500	4,500
2. 利 子	24	16	△ 8
3. 雑 収 入	500,000	493,103	△ 6,897
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,430,000	3,230,000	△ 200,000
当 期 歳 入 合 計 (A)	6,280,024	5,327,619	△ 952,405
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	762,377	762,377	0
歳 入 合 計 (B)	7,042,401	6,089,996	△ 952,405

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 事 務 費	1,990,500	1,922,507	△ 67,993
消 耗 品 費	10,000	1,270	△ 8,730
人 件 費	1,800,000	1,764,309	△ 35,691
通 信 費	38,000	36,524	△ 1,476
旅 費	39,000	39,000	0
終身会費返金	100,000	80,000	△ 20,000
雑 費	3,500	1,404	△ 2,096
2. 会 議 費	1,004,000	855,035	△ 148,965
代表委員会費	200,000	162,338	△ 37,662
代表委員会旅費	800,000	690,440	△ 109,560
役 員 会 費	4,000	2,257	△ 1,743
3. 事 業 費	2,330,000	2,325,277	△ 4,723
会 報 等 印 刷 費	600,000	600,000	0
会 報 郵 送 費	900,000	895,964	△ 4,036
会 報 発 送 雑 費	780,000	798,587	18,587
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	20,726	△ 19,274
4. 名簿関係費	7,500	0	△ 7,500
発 送 費	7,500	0	△ 7,500
5. 慶 弔 費	50,000	4,168	△ 45,832
6. 支部総会派遣費	500,000	375,700	△ 124,300
7. 卒業・修了祝賀会 賛助費	150,000	150,000	0
8. 予 備 費	70,000	31,840	△ 38,160
当期歳出合計(C)	6,102,000	5,664,527	△ 437,473
当期収支差額(A)-(C)	178,024	-336,908	△ 514,932
次期繰越収支差額(B)-(C)	940,401	425,469	△ 514,932

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 終 身 会 費	4,650,000	3,100,000	△ 1,550,000
新 入 生 分	4,600,000	3,100,000	△ 1,500,000
卒 業 生 分	50,000	0	△ 50,000
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	6,429	7,357	928
当 期 歳 入 合 計 (A)	4,656,429	3,107,357	△ 1,549,072
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	59,644,809	59,644,809	0
歳 入 合 計 (B)	64,301,238	62,752,166	△ 1,549,072

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 一般会計への繰入	3,430,000	3,230,000	△ 200,000
2. 名 簿 費	2,600,000	2,893,000	293,000
3. 振 込 料	1,000	864	△ 136
当期歳出合計(C)	6,031,000	6,123,864	92,864
当期収支差額(A)-(C)	△ 1,374,571	-3,016,507	△ 1,641,936
次期繰越収支差額(B)-(C)	58,270,238	56,628,302	△ 1,641,936

3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 基本金特別会計より繰入	0	0	0
2. 利 子	8	9	1
3. 95周年記念祝賀会参加費		54,000	54,000
当 期 歳 入 合 計 (A)	8	54,009	54,001
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	999,093	999,093	0
歳 入 合 計 (B)	999,101	1,053,102	54,001

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 事 務 費	50,000	1,028	△ 48,972
2. 会 議 費	200,000	1,253	△ 198,747
3. 旅 費	120,000	0	△ 120,000
4. 雑 費	100,000	208,662	108,662
当期歳出合計(C)	470,000	210,943	△ 259,057
当期収支差額(A)-(C)	-469,992	-156,934	313,058
次期繰越収支差額(B)-(C)	529,101	842,159	313,058

4. 資産現在高

(単位：円)

項 目	年度始現在高	現 在 高
1. 一般会計	762,377	425,469
2. 基本金特別会計	59,644,809	56,628,302
3. 百周年記念事業	999,093	842,159
合 計	61,406,279	57,895,930

5. 資産保管状況

(単位：円)

項 目	一 般 会 計	基本金会計	百周年記念事業会
1. 現 金	15,009		
2. 普 通 預 金			
大 垣 共 立 銀 行			
十 六 銀 行	361,663	3,009,275	842,159
三 井 住 友 信 託 銀 行		3,564,012	
郵 便 局	38,797		
み ず ほ 銀 行		2,583,504	
3. 定期定額貯金			
大 垣 共 立 銀 行		9,611,451	
十 六 銀 行		21,840,060	
三 井 住 友 信 託 銀 行		16,000,000	
4. 振 替 貯 金	10,000	20,000	0
合 計	425,469	56,628,302	842,159
総 計		57,895,930	

平成31年度各務同窓会予算(案)

収支予算書 (平成31年4月1日～令和2年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 会 費 会 金 費	2,435,000	2,350,000	85,000
入 会 金 費	2,380,000	2,300,000	80,000
年 会 費	55,000	50,000	5,000
2. 利 子	24	24	0
3. 雑 収 入	500,000	500,000	0
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,430,000	3,430,000	0
当 期 歳 入 合 計 (A)	6,365,024	6,280,024	85,000
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	425,469	762,377	△ 336,908
歳 入 合 計 (B)	6,790,493	7,042,401	△ 251,908

(2) 歳出の部

勘定項目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 事 務 費	1,987,500	1,990,500	△ 3,000
消 耗 品 費	10,000	10,000	0
人 件 費	1,800,000	1,800,000	0
通 信 費	38,000	38,000	0
旅 費	36,000	39,000	△ 3,000
終身会費返金	100,000	100,000	0
雑 費	3,500	3,500	0
2. 会 議 費	1,153,000	1,004,000	149,000
代表委員会費	350,000	200,000	150,000
代表委員会旅費	800,000	800,000	0
役 員 会 費	3,000	4,000	△ 1,000
3. 事 業 費	2,330,000	2,330,000	0
会 報 等 印 刷 費	600,000	600,000	0
会 報 郵 送 費	900,000	900,000	0
会 報 発 送 雑 費	780,000	780,000	0
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	40,000	0
4. 名簿関係費	7,500	7,500	0
発 送 費	7,500	7,500	0
5. 慶 弔 費	50,000	50,000	0
6. 支部総会派遣費	500,000	500,000	0
7. 卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	150,000	0
8. 予 備 費	70,000	70,000	0
当期歳出合計(C)	6,248,000	6,102,000	146,000
当期収支差額(A)-(C)	117,024	178,024	△ 61,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	542,493	940,401	△ 397,908

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 終 身 会 費	4,810,000	4,650,000	160,000
新 入 生 分	4,760,000	4,600,000	160,000
卒 業 生 分	50,000	50,000	0
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	6,141	6,429	△ 288
当 期 歳 入 合 計 (A)	4,816,141	4,656,429	159,712
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	56,628,302	59,644,809	△ 3,016,507
歳 入 合 計 (B)	61,444,443	64,301,238	△ 2,856,795

(2) 歳出の部

勘定項目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 一般会計への繰入	3,430,000	3,430,000	0
2. 振 込 料	1,000	1,000	0
当期歳出合計(C)	3,431,000	3,431,000	0
当期収支差額(A)-(C)	1,385,141	1,225,429	159,712
次期繰越収支差額(B)-(C)	58,013,443	60,870,238	△ 2,856,795

3. 百周年記念事業会

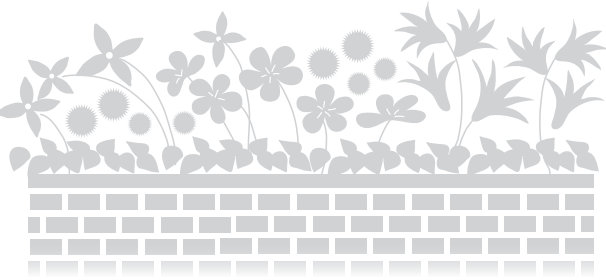
(1) 歳入の部

(単位：円)

勘定項目	今年度予算	前年度予算額	比較増△減額
1. 基本金特別会計より繰入	0	0	0
2. 利 子	9	8	8
当 期 歳 入 合 計 (A)	9	8	1
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	842,159	999,093	△ 156,934
歳 入 合 計 (B)	842,168	999,101	△ 156,933

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	前年度予算額	比較増△減額
1. 事 務 費	50,000	50,000	0
2. 会 議 費	200,000	200,000	0
3. 旅 費	120,000	120,000	0
4. 雑 費	100,000	100,000	0
当期歳出合計(C)	470,000	470,000	0
当期収支差額(A)-(C)	△ 469,991	△ 469,992	1
次期繰越収支差額(B)-(C)	372,168	529,101	△ 156,933



学園だより

課程等の近況

◆応用生命科学課程

同窓生の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。当課程は、本年3月に学部卒業生91名を送り出し、そのうち55名が大学院修士課程に進学しました。修士課程修了者は54名で、そのうち3名が岐阜大学連合農学研究科博士課程に進学しました。この4月には、本課程に85名の新入生及び5名の3年次編入学生を迎え入れました。大学院修士課程には平成30年度秋季入学生3名を加えて61名が入学しています。続いて教員の動向をお知らせします。本年4月に分子生命科学コースの寺本好邦准教授（バイオマ

ス材料化学）が京都大学大学院農学研究科森林科学専攻の准教授として転出されました。教育・研究面での多大な貢献に感謝しますとともに、今後の益々のご活躍をお祈りします。また、来年3月末日を以って食品生命科学コースの早川享志教授（食品栄養学）と荒幡克己教授（食品経済学）が定年退職されます。早川先生には、優しくも厳しい栄養科学の講義や、難消化性澱粉の研究によるテレビ出演など課程の発展に大いに貢献

して頂きました。荒幡先生には、本課程において貴重な社会科学系の教員として教育と研究で大いに貢献頂いただけでなく、入試委員や入試委員長として岐阜県や愛知県の高校を回って頂き、本課程への志願者の増加に大きく貢献して頂きました。本当に有り難うございました。明年2月10日に両先生の最終講義が予定されていますので、多数のご来聴をお待ちしております。

学生さん大いに活躍しております。平成30年度卒業・修了時に増田凌也さん（学長表彰）、細井友加里さん（学長表彰・大学院）、中 智美さん（研究科長表彰）、吉安柚夏さん（学部長表彰）、外島 響さん（同窓会長表彰）、竹内萌恵さん（同窓会長表彰・大学院）が表彰され、また創立記念日に田口拓実くん（平成30年度）、平塚諒大くん（令和元年度）が学生表彰を受けました。その他にも、7名の大学院生（修士）が学会で優秀発表賞等を受賞して、研究科長表彰を受けました。

昨年もお知らせしていました岐阜県食品科学研究所が本年4月に本学部敷地内に開所しました。その2階に矢部富雄教授、中野浩平

教授の研究室がございますので、是非、お訪ね下さい。また、中川智行教授の陣頭指揮の下に開発された岐阜大学オリジナル日本酒「多望の春・岐山と曲阜」が完成し、それぞれ高評価を頂きました。本年度は完売いたしました。来年度また発売されますので、どうぞお買い求めください。

末筆乍ら、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

◆生産環境科学課程

各務同窓会の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年度に引き続き平松が課程長を拝命いたしました。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

さて、生産環境科学課程の近況についてご報告申し上げます。本年3月には、学部から89名の学生が卒業し、それぞれの新しい進路に向かって一歩踏み出していきました。なお、卒業生のうち1名は、本課程では初めてになりますが、優秀な成績により3年次を終了した時点での卒業が認められた早期卒業となっております。自然科学技術研究科生物生産環境科学専攻からは同研究科第1期生となる45名の修了生を送り出しました。新

しい研究科が一つの目標としたデザイン能力でもって社会で活躍してくれることを期待しているところです。修了生のうち1名は連合農学研究科に進学し、引き続き本学で研究者・高度技術者への道を邁進しております。卒業・修了祝賀会では竹本彩香さんが学部長表彰、杉村春佳さんが研究科長表彰、平松志歩さんと中森さつきさんが同窓会長表彰をそれぞれ受けております。また、本年4月には3年次編入の5名を含めて90名の学部生、本学部からの進学者43名を含めて50名の大学院生を迎えました。

副学部長（総務担当）にご就任されております。課程内では、応用植物科学コース長に山本義治教授、応用動物科学コース長に松村秀一教授、環境生態科学コース長に西村慎一教授がそれらの任に当たっており、各コースの教育改善などに精力的に取り組んで頂いております。

次に教員の動向ですが、本年度は新任教員、退職教員ともにおらず、昨年度と陣容に変化ありません。管理運営面については、福井博一先生には本学理事・副学長（企画・評価・基金担当）として、全学の立場で岐阜大学の発展にご尽力頂いております。また、千家正照教授が連合農学研究科長、小山博之教授が学長補佐、大学院担当教員である大場伸也教授がフィールド科学教育センター長、同じく大学院担当教員である栗屋善雄教授が流域研科学研究センター長として、昨年度より引き続き活躍されております。また、本年度からは山田邦夫教授が学部長補佐として学部舵取りの一翼を担っております。向井讓教授におかれては70周年事業推進を期待され、再度、

研究の成果としては、昨年度の近況報告以降、小山博之教授、須賀晴久准教授、清水将文准教授指導のMarek Marianやんと西岡友樹さんがIOBC-WPRS Gold Award for Best Student Oral Presentation、須賀晴久准教授と景山幸二教授指導の山田健介さんが日本菌学会第62回大会学生最優秀口頭発表賞、川窪伸光教授と土井守教授が日本学術振興会より平成29年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）表彰、山根京子准教授指導の羽賀夏子さんが第26回育種学会中部地区談話会優秀ポスター賞、大塚俊之教授指導の鈴木莉央奈さんと曹若明さんが日本生態学会中部地区会ポスター賞、田中貴助教と松井勤教授が日本作物学会第247回講演会優秀発表賞、山本義治教授がThe Plant JournalのOUTSTANDING PAPER AWARDをそれぞれ受賞されております。

末筆ながら、同窓生各位のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。（平松 研）

各務同窓会報

◆共同獣医学科

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本年4月より鈴木先生の後任として学科長を拝命いたしました。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、共同獣医学科の近況ですが、今年度の1年生（7期生）は68名（岐阜大学31名、鳥取大学37名）を数えました。また、本年3月には本学科の第1期生となる63名（岐阜大学28名、鳥取大学35名）が卒業しました。岐阜大学からの卒業生28名は全員が獣医師国家試験に合格しており、昨年に引き続き2年連続の合格率100%を達成しております。獣医師としてそれぞれの分野で活躍されることを期待しております。

人事に関するご報告では、本年3月に獣医解剖学研究室の阿閉泰郎先生および獣医病理学研究室の柳井徳磨先生が定年により退職されました。また、獣医外科学研究室内の山添和明先生が岡山理科大学へ転出されました。一方、本年5月には獣医微生物学研究室に中川敬介先生が准教授として着任されました。また、山添先生の後任として、本年8月に渡邊一博先生が教授に昇任されました。研究の成果としては、食品環境衛生学研究

室の猪島康雄先生が第24回日本野生動物医学会大会にて優秀口頭発表賞を、また平成30年度森永奉仕会賞を受賞されております。また、獣医病理学研究室の酒井洋樹先生が本学の教育研究活動に著しく貢献した者として職員功労者表彰を受けました。

岐阜大学は岐阜県と連携に関する協定を締結しており、平成29年6月には岐阜大学のキャンパス内に岐阜県中央家畜保健衛生所が移転してきました。また、大学との連携を目指して中央家畜保健衛生所内に設置された「家畜衛生地域連携教育研究センター（GeFAH）」では、共同獣医学科学生の動物衛生学実習の開講、高病原性鳥インフルエンザ防疫演習の開催、家畜衛生技術検討会の開催等、岐阜県と協力して様々な取り組みを行っております。岐阜県及び近隣県では豚コレラの発生がいまだに終息を見ない状況ですが、引き続き共同獣医学科としても県域における家畜衛生体制の強化に努力を続けていく所存であります。

末筆ながら、同窓生の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

（海野年弘）

◆連合農学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

はじめに、本年度の教職員には8月から新たに伊藤輝美さんが事務スタッフとして加わることになり、千家研究科長、中野研究科長補佐（専任教員）他、事務の横田室長、中峰係長、今井、高橋、戸本、栗本、伊藤が一致協力して本研究科の管理運営に努めております。

本研究科は平成3年度に発足して以来29年目を迎えることになりました。平成30年度の学位授与者数は課程博士26名（内、外国人留学生21名）、論文博士3名（内、外国人1名）でした。本年度の入学者は、定員20名に対して15名（内、外国人留学生7名）で、これに秋季入学の学生も加わります。現在、本研究科には、総数99名の学生が在籍しており、外国人留学生が54名（中国、インドネシア、タイ、バンラデシ他、計9か国）です。

本年度の特徴的な取り組みを紹介致します。

まず、第1点目は、インド工科大学グワハティ校とのジョイント・ディグリー・プログラムについて文科省から昨年6月に開設認可を受け、平成31年4月から国際連携食品科学技術専攻が新設され、柳瀬笑子准教授を専任教員、上野義仁

教授を専攻長として配置し、学生の受け入れ（定員2名）が始まりました。

第2点目は、10月8日に本研究科が提唱しているCGU12（南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム）の国際会議を実施し、国外の協定9大学の代表者を招聘し、ダブルディグリー・プログラムと共同実験室運営について集中的に意見交換するとともに、今後の協働教育の方向性について検討致します。

次に、本研究科が企画しているイベントについて紹介致します。

本年度も岐阜大学重点講座を10月26日に開催致します。本年度のテーマは「食品がつくる環境と環境がつくる食品」で、3名の講師をお招きし、デンブ、母乳、ミカンの色素が健康に与える影響についてご講演頂きます。

海外修了生のフォローアップ、共同研究の創出、研究ネットワークの構築を目指して、岐阜大学で国際研究シンポジウム、海外での研究ワークショップを開催する予定であります。10月9日・10日には岐阜大学内で「食品科学」の分野について、国際シンポジウムを開催し、本学の教員だけではなく、海外の大学や研究機関で活躍している修了生を招聘し、情報交換を行います。

11月18日・19日にはインドネシアのスプラスマレット大学主

催、本研究科が共催で、「Climate Change: the Risk to Sustainability and Environmental Issue」と題して、近年の気候変動がもたらす課題について国際シンポジウムを開催する予定であります。その他、12月9日・10日においてもフィリピンのマリアノ・マルコス州立大学で国際シンポジウムの開催を計画しております。

以上のようなシンポジウムの開催テーマは公募制を採用し、本研究科教員からご提案のあったテーマの中から、緊急性、重要性、実現性を考慮して決定致します。いずれも、海外で活躍する修了生のフォローアップと研究ネットワークの構築を目指した企画であります。

最後になりましたが、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

（千家正昭）

◆連合獣医学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平成30年度の本研究科の学位授与者数は、課程博士31名および論文博士3名の計34名でした。

連合獣医学研究科在学生は、昨年度に受け入れた学生が最後のため、80名（うち留学生24名）となり、学生が修了していくにつれ、毎年

各務同窓会報

25名前後減少していくこととなります。全ての在学学生を修了させるまで、基幹校としてこれまで同様に社会に貢献する人材育成に務めてまいります。

平成31年2月18・19日に岐阜大学で第10回ジョイントワークショップを主催し、東アジアの7大学と国内の8大学から学生と教員約100名に参加いただきました。このワークショップは、2010年に開催された「ソウル大学獣医学部と岐阜大学連合獣医学研究科のジョイントワークショップ」に始まり、今回を最後に東アジア獣医学会へと引き継がれていくこととなります。

岐阜大学を含む本研究科の構成校では、本研究科所属の学生と新大学院の学生とともに、獣医学の発展のための研究を日々続けています。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(浅井鉄夫)

◆共同獣医学研究科

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年4月1日より岐阜大学大学院共同獣医学研究科ならびに鳥取大学大学院共同獣医学研究科が新たに発足し、両大学院による共同

獣医学専攻が開設されました。これまで岐阜大学は、帯広畜産大学、岩手大学および東京農工大学とともに連合獣医学研究科を、また、鳥取大学は山口大学および鹿児島大学とともに連合獣医学研究科を構成して大学院教育を実施し、獣医学の様々な分野に関わる研究者の養成を担ってきました。一方、これらの連合獣医学研究科を構成している各大学は、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した教育の実現のため、2大学ずつがペアを組み共同教育課程を構成して学部教育の充実を図ってきました。岐阜大学は平成25年度より鳥取大学と共同獣医学科を開設し、平成30年度に第1期生が卒業しました。このような状況の中、

これまでの連合大学院を発展的に解消し、共同教育課程を構成している大学が新たに共同大学院を開設することになりました。これにより、学部教育から大学院教育まで一貫した教育理念に基づく人材育成が可能となります。

共同獣医学専攻では、これまでの研究活動で培った岐阜および鳥取大学双方の特徴を生かし、「家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト」、「One Healthスペシャリスト」、および「難病治療・創薬スペシャリスト」の養成を目指しております。「家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト」では、豚

コレラや口蹄疫などの各種感染症対策にリーダーシップをとれる専門家の養成をめざします。「One Healthスペシャリスト」では、ヒト、動物、環境を一体にとらえる視点で国際的に指導的役割を果たすことにより、地球全体の健全性維持の対策を考えることができる専門家の養成をめざします。また、「難病治療・創薬スペシャリスト」では、臨床獣医師の指導的立場に立つリーダーや、基礎研究で得られた成果を臨床に応用できる技術や創薬へと繋げるトランスレーショナルリサーチを推進できる専門家の養成を目標としています。

今後も、教職員一同、共同獣医学研究科の教育・研究の発展と充実に向け、たゆまぬ努力を続ける所存でおります。つきましては、皆様方のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

末筆ながら、同窓生の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(海野年弘)

◆附属岐阜フィールド科学教育研究センター

各務同窓会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

す。

さて今年3月末に、美濃加茂農場に大型牛舎が完成し飛騨牛繁殖研修事業が開始しました。また、長い間勤続頂いた技術職員の森本英司さんが退職されましたが、美濃加茂農場のテコ入れとして引き続き再任用でご活躍頂いています。技術職員として2年間の任期で勤務頂いた新津伊織さんが退職されましたが、正式に本多陸さんが採用されました。位山演習林では、多人数での宿泊実習に使わせて頂いてきた下呂市位山自然の家が耐震のため使えなくなり、新たな方策を検討中です。

柳戸と美濃加茂の両農場では、大学改革促進経費などの補助で、徐々に機器の更新と施設整備が図られています。位山演習林でも老朽化が目立つ施設設備の整備が必要であり、これについても各方面と相談しているところです。今後とも同窓の皆様方のご協力ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(大場伸也)

◆動物病院

動物病院の現況についてお知らせいたします。

動物病院の課題として人材確保が挙げられますが、昨年度は動物

看護師を5名、常勤獣医師を2名雇用いたしました。ただ、人材不足はまだ改善されたとは言い難く、引き続き労働環境の改善と人材育成、リクルートの強化を図っていく所存です。

施設に関しましては、今まで使用していたMRIのリース期間終了に伴い、新たに3TのMRI (Philips Ingenia 3.0 T) を新規導入いたしました。これによりMRI画像の高精細化や様々なシーケンスによる撮像が可能となり、特に神経系疾患の診断能力が向上することが期待されます。また、導入機種については医学部附属病院に導入されているものと同一機種であり、医学部との共同研究が容易になるというメリットも期待されます。

診療収入については、昨年度が3億7千万と一昨年より約5千万円増加いたしました。これは診療料金の改正によるものが大きく、この収入増により労働環境の改善を図り、また、今後控えている大型診療機器等の入れ替えに備えていく予定です。

今後とも、動物病院の運営に関しまして、ご理解ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

(森 崇)

◆野生動物管理学 研究センター

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

まずは、岐阜県の寄附による寄附研究部門「鳥獣管理の教育と普及」についてです。本部門は3年目（寄附研究部門としては2期目8年目）を迎え、研究に加え普及啓発や人材育成の機能をさらに強化しております。一昨年から開始した連続講座「野生動物を知る」につきましては、今年も8回の開催を予定しております。詳細なご案内は、<https://www1.gifu-u.ac.jp/~icwm/>に掲載しておりますので、機会があればご覧頂ければ幸いです。

なお、今回は特筆すべきご報告があります。日本学術会議に設置された「人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会」が作成した文書（環境省への回答書）におきまして、寄附研究部門に関する岐阜県の取り組みが「先進事例」として紹介されました。同回答書は、<http://www.sci.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-k280.pdf>にて閲覧できますので、こちらにつきましても是非ともお目通しください。

昨今の野生動物管理においては、「豚コレラ対策の一環として

のイノシシの管理」が喫緊の課題となっておりま。当センターにも、複数の自治体から依頼や相談が寄せられ、捕獲体制や年齢査定方法等に関する助言を続けている状況です。つきましては、同窓の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

（鈴木正嗣）

◆共同獣医学教育開発 推進センター

各務原同窓会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本センターでは、共同獣医学科の「カリキュラムの改定」を今年度最大の役割と位置づけ、活動を続けております。今年3月に第1期生を送り出し、教育のあり方等に関わる幾つかの課題が明らかにされたためです。

検討項目は複数に渡りますが、たとえばモデル・コア・カリキュラムにもとづく齊一教育科目においては、講義と実習の適正配置の観点から開講時期や内容の再編を進めております。アクティブ・ラーニングの考え方を念頭に、自学自習を軸とする思考力・実践力養成教育へのシフトを意識している点も、今回の改定の特徴と言える

かもしれません。

また、これまでの共同教育を通じて、遠隔講義システムの運用・更新等に要する経費の大きさも改めて認識することになりました。そのため、「いかに教育の質を下げずにコスト削減を達成するか」も検討課題のひとつとしております。昨今の報道にありますように、運営交付金の削減等により国立大学をめぐる諸環境は更に厳しさを増しております。つきましては、引き続き皆様方のご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願いいたします。

（鈴木正嗣）

◆附属家畜衛生地域連携 教育研究センター (GeFAH、ジーフア)

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育研究センター(Education and Research Center for Food Animal Health, Gift University GeFAHジーフア)は今年、宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターを中心とし、獣医系大学の産業動物に関わるセンター等により構成された産業動物防疫コンソーシアムに参加し、教育、

研究連携のネットワークを全国に広げることになりました。

2018年9月、岐阜市内の養豚場で国内26年ぶりとなる豚コレラが発生しました。その一週間後には岐阜大学からすぐ近くの用水路で死んでいた野生イノシシから豚コレラウイルスが検出されました。豚へのワクチン接種を強く要望していますが、国はかたくなにワクチン接種を許可しないまま、有効な打開策を打ち出せず、発生から1年近く経ちます。7月10日にはついに国内31例目となる発生が岐阜県内の養豚場であり、県内飼育頭数の半数が殺処分されました。野生イノシシへのワクチン散布が実施されていますが、その効果は限定的であり、岐阜、愛知、三重、福井、長野のイノシシまでウイルスが拡散しています(2019年7月13日現在)。

GeFAHの教員は、農林水産省の拡大豚コレラ疫学調査チームのメンバーとして発生農場での調査に協力しているほか、岐阜県の有識者会議の委員長、豚コレラ拡散防止対策検討会、野生イノシシ対策についての意見交換会、愛知県・岐阜県アドバイザー・グループ会議、等に専門家として出席、協力してきました。大規模養豚場で発生があるたびに、獣医師の資格を有するGeFAH・共同獣医学科の教員、大学院生は、岐阜県からの

要請により殺処分、防疫措置作業に何回も加わりました。今の養豚場は、ウイルスがドロドロの土石流の中に取り残された小さな中州です。養豚農家さんは必死になつて防疫に努めています。家畜保健衛生所、岐阜県の職員は疲弊しています。ワクチン接種が許可されない限り、残念ながら発生は今後も続くと思われる危機的な状況です。GeFAHでは今後も、家畜衛生教育・研究、自治体との連携を進めてまいります。豚コレラが早期に収束することを強く願っております。今後とも同窓の皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

（GeFAHセンター長 猪島康雄）



GeFAHの2種類のロゴマーク

教員の異動

定年退職

H30.3.31
生産環境科学課程

田中逸夫

H30.3.31
応用生命科学課程

葭谷耕三

H31.3.31
共同獣医学科

阿閉泰郎

H31.3.31
共同獣医学科

柳井徳磨

転出

H30.10.31
共同獣医学科

大屋賢司

国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部第二室長へ転出

H31.3.31
共同獣医学科

山添和明
学校法人加計学園 岡山理科大学へ転出

H31.3.31
応用生命科学課程

寺本好邦

京都大学生物生産環境学系へ転出

昇任

H31.4.1
応用生命科学課程 食品生命科学
准教授

稲垣瑞穂

応用生命科学課程 食品生命科学
助教から

H31.4.1
応用生命科学課程 食品生命科学
准教授

勝野那嘉子

応用生命科学課程 食品生命科学
助教から

H31.4.1
応用生命科学課程 食品生命科学
准教授

タンマウオン

マナスイカン
応用生命科学課程 食品生命科学
助教から

R1.8.1
共同獣医学科 教授

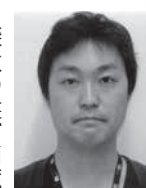
渡邊一弘
共同獣医学科 准教授から

採用

R1.5.1
共同獣医学科 獣医微生物学
准教授

中川敬介

新任教員のあいさつ



獣医微生物学研究室 准教授
中川 敬介

深秋の候、同窓生の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、応用生物科学部 共同獣医学科 獣医微生物学教室 准教授の職を拝命致しました中川敬介と申します。私は岐阜大学 農学部 獣医学科を2009年に修了し、2013年に岐阜大学大学院連合獣医学研究科にて学位（獣医学）を取得しました。その後、テキサス大学にて人獣共通感染症である中東呼吸器症候群（MERS）コロナウイルスの研究に従事しておりました。この度、母校である岐阜大学で教員として働く機会に恵まれたことをとても幸せに思います。岐阜大学では今までの研究経験を生かし、動物のコロナウイルス感染症に対する治療・予防・診断法開発に関する研究を行うつもりであります。今後展開する研究により、少しでも畜産業および動物医療に貢献できたら望外の喜びであります。MERSコロナウイルスの出現や、昨今の豚コレラの流行が示しております様に、感染症の脅威から動物や人類を守る獣医師の需要が高まっております。また、私が担当します獣医微生物学は獣医学の様々な分野に関わる重要な学問であります。その責任を感じつつ、微生物に対する正しい知識を備え、様々な現場で活躍できる人材の育成に尽力する所存であります。未熟な教員ではございますが、何卒今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

教員・旧教員の受賞

田中 貴助	助教	日本作物学会第247回講演会優秀発表賞	平成31年 3月29日
松井 勲	教授		
猪島 康雄	教授	平成30年度森永奉仕会賞	令和元年 6月 1日
山本 義治	教授	OUTSTANDING PAPER AWARD	令和元年 6月27日
西津 貴久	教授	日本食品工学会2018年度研究賞	令和元年 8月 7日
楠田 哲士	准教授	第22回公益信託エスバック地球環境研究・技術基金・エスバック環境研究奨励賞	令和元年 8月23日
猪島 康雄	教授	第25回日本野生動物医学会大会優秀口頭発表賞	令和元年 9月 1日
西津 貴久	教授	農業食料工学会学術賞	令和元年 9月 3日
椎名 貴彦	准教授	令和元年度日本獣医学会賞	令和元年 9月11日

退職予定者のあいさつ

岐阜大学での教育・研究を終えるにあたり



早川 享志

私が岐阜大学にきたのは平成2年3月1日、そして令和2年3月31日に定年を迎えます。岐阜での30年にも及ぶ教育・研究生活はあつという間というのが実感です。岐阜に来る前は東京農業大学で約4年間助手として過ごしました。岐阜大での公募があるという情報を頂き、関連書類を提出して忘れた頃に、教授会を通ったとの連絡を受けて岐阜大への赴任が決まりました。今の手続きを思うととても簡素です。採用前は「人事は当分動かないから10年は助手覚悟！」と言われておりましたが、有難いことに1年も経たずに昇任の話が持ち上がり翌1月には助教に昇任しました。研究では柘植教授の下でビタミンB6関連の動物実験の立上げが当初の私の役割でしたが、自分の研究テーマも持たねばならない雰囲気の中、「食物繊維と腸内ビタミンB6産生」

の研究を始めました。こうした中、外部資金研究の一つであった「老化デンブ」(今でいうところのタイプ3のレジスタントスターチ)の生理効果に関する実験」を私が担当することになりました。この実験のおかげで、アブレード(豪)

国際栄養学会での発表、科研費の取得、それに続くアブレードへの留学と、赴任後5年間でレジスタントスターチ研究が一つの柱になりました。日本はデンブ研究者が多く、研究も盛んです。というのも、デンブの老化は、食品業界にとつては有難くない現象で、老化デンブは食感低下につながる厄介者であることから、デンブの研究は老化を抑えることを目的とした研究が中心で、老化デンブの生理効果に着目した研究は殆ど手がつけられていませんでした。しかし、細々と継続したのが幸いし、近年ではTVや雑誌等いろいろな媒体でレジスタントスターチを取り上げて頂き、体に良い物らしいという認識を持って頂けるようになったのは、研究者冥利に尽きます。

岐阜とは無縁と思っていた私ですが、大学院入学時の指導教授、

技官、研究室先輩は岐阜大学出身者で、各務同窓生には赴任以前から大変お世話になっておりました。これまで私が関わった多くの同窓生ならびに職員の方々に感謝申し上げます。

退職予定者の挨拶



荒幡 克己

このたび、退職を迎えることとなりました。岐阜大学で過ごした20有余年、これまで楽しく、充実した日々を送ることが出来たのも、偏に、教員、事務職員の皆様の御蔭です。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

懐かしく思い出される日々を振り返ると、研究、教育、管理運営、それぞれの場面で様々なシーンが浮かびますが、総じて言えば、研究はまあ「人並みに」、教育は「試行錯誤、悪戦苦闘」という感じでした。管理運営では、誇れるほどの貢献をした訳ではありませんが、その仕事を通じて、私自身が得るものが多かったことが思い出されます。

私は、入試関係の業務を長く務めさせていただきましたが、平成20年代半ばまでは、入試担当が広報も兼ねてやっておりました。ちょうどそのころ、課程によっては入試倍

率が落ち込みましたので、その挺入れのために、高校訪問を盛んにやりました。私も、入試委員長、副委員長長の時代を合わせて、延べ33の高校を訪問しました。北は、能登半島の石川県七尾高校、千曲川沿いの長野県屋代高校、そして、東は、埼玉県川越女子高校まで行きました。この仕事は、一般企業のセールスマンと同じで、「足を運んだこと」

自体に意義があり、余り長話したりしては嫌われます。そこで、時間に遅れないように早めに着いて、比較的短時間で面談を終えて、余った時間を利用して、校庭を散策し、校歌が刻まれた石碑を見つめる、という楽しみを、訪れた各校で味わうようになりました。その石碑の前で佇み、校歌の一節一節を読み、時には事前にYouTube等で確認したメロディに合わせて歌ってみると、その高校の創設者の思いが伝わってくるような気がします。「こういう教育を受けて育てられた学生が入ってくるのである。しっかりと、更にその芽を伸ばす教育をしなければならぬ。」と、気を引き締め直すことが、しばしばありました。更に、各高校の校歌が教えるところは、私自身の生き方に対しても、示唆に富む内容でもありました。

私は、農林水産省の行政官から転じての大学教員でしたので、教学委員等の仕事には苦手意識があり、

とはいえ、管理運営でもせめて人並みの貢献はしなくてはならない、と思っておりましたので、この分野なら何とか出来そうだ、という消極的な理由で選んだ入試分野でしたが、貢献出来たかどうかはさておき、結果的に私自身にとつて、勉強になることが多々ありました。

研究に関して付言すれば、私のような文科系、特に私の専門の一つである経済史という分野は、比較的高齢でも活躍し、また、長くやってようやく実を結ぶ、という性格があります。研究に関しては、まだこれから私自身のやってきたことの集大成を仕上げるのが責務、という感じでおります。引き続き精進する所存です。

最後に、改めて、お世話になりました皆様に深く感謝して、揮筆すること致します。ありがとうございます。

感謝



千家 正昭

昭和56年1月4日に助手として岐阜大学に着任しました。まだ農学部のカンパスが各務原の地にあった頃です。当時は日本全国が記録的な豪雪に見舞われ、着任当日の岐阜も数十センチの積雪

退職者記念事業のお知らせ

早川享志教授の

定年退職のお知らせ

があり、とんでもない所に就職したものだと思悔したことを記憶しております。早いものでそれから約40年もの月日が矢のごとく過ぎ去り、その間、大学は目まぐるしく変化しました。昭和57年には現在の黒野の地に農学部が統合移転し、着任早々、毎日のように引越しの準備に追われたことを昨日のこのように思い出します。昭和63年には獣医を除く5学科が3学科に改組され私の専門分野である農業工学科が消滅しました。平成16年には全国の国立大学が法人化したことよって公務員の身分が剥奪され、同時に岐阜大学から伝統ある農学部の名称がとうとう消滅しました。さらに、来る令和2年4月には名古屋大学との経営統合により東海国立大学機構の一員として岐阜大学が生まれ変わろうとしており、この大きな変革の真つただ中で退職することになりました。この間、私自身が成し遂げたことは何もなく申し訳ない気持ちでいっぱいです。ただ、毎年、研究室を巣立った多くの卒業生が社会で立派に活躍している姿を見るにつけ、自分が素晴らしい職場に身を置けたことの幸運に感謝しております。今まで、私を支えていただいた職場の皆様や学生諸君に心よりお礼申し上げますとともに、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

応用生命科学課程 食品生命科学コースの早川享志教授は、令和2年3月31日をもって定年退職されます。

先生は平成2年3月に東京農業大学 農学部 助手から本学 農学部 生物資源利用学科 助手に転任され、平成15年に教授に昇任されました。平成16年からは学部改組により応用生物科学部教授として教育・研究に従事されました。

先生は、食品栄養学的視点から、レジスタントスターチ等のルミナコイドによる大腸内環境の改善について研究を進めるとともに、水溶性ビタミンであるV・B6の関わる代謝調節機構を栄養生化学的に解析されました。こうした研究を通して、5名の課程博士を含む数多くの優秀な人材を社会に輩出されました。また、先生は教学委員長や応用生命科学課程長など学部・課程の重要なポストを務められ、学部運営に大きく貢献されました。

先生のご退職にあたり、最終講義『科学の発展と栄養』を令和2

年2月10日（月）午後に、全学共通教育講義棟多目的室において開催します。多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。また、講義の後、15時30分より応用生物科学部B棟2階の第1会議室において茶話会を開催する予定です。

（中川智行）

荒幡克己教授の

定年退職のお知らせ

応用生命科学課程 食品生命科学コースの荒幡克己教授は、令和2年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、平成8年に農林水産省 東海農政局農産普及課長から本学 農学部生物生産システム学科に助教として転任され、平成11年に教授に昇任されました。平成16年からは学部改組により応用生物科学部教授として教育・研究に従事されました。その間、日本の農業政策、食料政策について、アメリカやヨーロッパとの比較を交えつつ、計量的な手法により分析されるところに、経済史の視点からも

研究されてきました。一方、学内の管理運営では、入試委員を長く務められるとともに、入試委員長としても、学部運営に貢献されました。

先生のご退職にあたり、最終講義「岐阜高等農林学校校歌「我ら多望の春にして」の源流を訪ねてー凜真寮歌との比較ー（仮題）」を令和2年2月10日（月）13時より、全学共通教育講義棟多目的室において開催しますので、多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。また、講義の後、15時30分より応用生物科学部棟2階の第1会議室において懇親会を開催する予定です。

（西津貴久）

千家正照教授の

定年退職のお知らせ

生産環境科学課程環境生態科学コースの千家正照教授は、令和2年3月をもって定年退職なされます。

先生は、昭和55年12月に京都大学 農学研究科博士課程を中退し、翌1月より岐阜大学農学部助手として着任されました。その後、講師、助教授を経て、平成8年4月に教授へと昇進されました。その間、生産環境科学課程長、連

合農学研究科長といった要職を歴

任され、岐阜大学における農学教育に大きく貢献されました。研究では、農業用水に関わる様々な問題に取り組み、解決策を提示することで、水環境学の発展に大きく貢献されました。また、農林水産省、国土交通省、水資源機構、岐阜県や近隣各県における数多くの委員会に貢献され、東海地方における農業農村工学分野のご意見番として活躍されました。

先生のご退職にあたり、令和2年3月14日（土）13時より、全学共通教育棟101番教室にて、最終講義を開催します。また、同日18時より、ホテルグランベル岐山にて、定年を祝う会を開催する予定です。

（乃田啓吾）

叙位・叙勲

次の通り叙勲がありました。

土川 健之 氏（V大16）

旭日中綬章

（令和元年5月21日）

同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で平成19年度に設立されました。平成30年度も各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学研究科の学生の中から次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

■受賞者（敬称略）

応用生命科学課程

外島 響

生産環境科学課程

平松 志歩

共同獣医学科

成田 桃子

生命科学・化学専攻

竹内 萌恵

生物生産環境科学専攻

中森さつき

外島 響

十一月も終盤を迎え、ますます冬の気配が色濃くなってきました。この度は同窓会長賞

という素晴らしい賞を頂けてとても光栄に思います。このような賞を頂いたのも先生方や先輩、友人たちが親身になって私を支えて下さったことや家族の絶え間ない協力のおかげです。私に関わって下さった皆さんに深く感謝しています。今後も今ある環境に感謝して勉学に励んでいきたいと思っています。この度は本当にありがとうございます。

平松 志歩

この度は同窓会長賞という栄誉ある賞を頂き、誠に光栄に存じます。共に切磋琢磨し勉学に励んできた同期やご指導賜りました先輩方や先生方に感謝申し上げます。

大学の4年間はあっという間に過ぎ去ってしまい、今は新社会人として、日々四苦八苦しながら過ごしております。大学入学当時、私は将来への明確なビジョンは持っておりませんでした。しかしながら、4年間勉学の将来に対しても真剣に向き合

うことが出来ました。今後、岐阜大学の卒業生であることに誇りと自覚を持ち、一社会人として社会に貢献出来るよう努めて参ります。

成田 桃子

この度は同窓会長賞という素晴らしい賞を頂き誠に光栄に存じます。熱心にご指導頂いた先生方や先輩方、支えてくれた同期や後輩達、そして、温かく見守ってくれてきた家族に心より感謝申し上げます。

大学6年間は、勉強、部活、研究、遊びと、日々充実した時間を過ごすことができました。

卒業後は社会人として、これまでに出会った方々や培ってきた経験を大切にしつつ、同窓会長賞に恥じない獣医師になれるよう努めて参ります。

竹内 萌恵

この度は、同窓会長賞という

形で大学での活動を評価していただき、誠に光栄に存じます。岐阜大学では、熱心にご指導いただいた先生方や、互いに高めあった同期と共に大変充実した研究生活を送ることが出来ました。現在、私は食品メーカーでよりよい商品を開発するための研究活動に励んでおります。うまくいかないことも多いですが、大学で培った研究に対して貪欲に取り組む姿勢を強みに、社会に貢献出来るよう日々成長していきます。

中森さつき

同窓会長賞という形で大学院での活動を評価していただき、非常に嬉しく思っています。

このような賞がいただけたのも、熱心に指導してくださった先生方や、共に学んできた友人たち、困った時には優しく助けてくださった先輩方、そして常に応援をしてくれた両親のおかげであり、心から感謝いたします。

今後は岐阜大学・大学院で学び得たものを最大限に活かし、社会に貢献できるよう努めて参ります。

吉寄基金

平成30年度受領者報告

脂肪肝および肝障害に対する日本酒特異成分αーエチルグルコシドの持続的予防効果の検討

島田 昌也

平成30年度吉寄清己研究支援寄付金により、日本酒の薬効という点に着目した新たな研究を立ち上げることができました。

日本酒には古くから「酒は百薬の長」という言葉があるように、適量の日本酒摂取には薬効が期待されています。その薬効が期待される日本酒特異的成分の一つがαーエチルグルコシド（以下αーEG）であり、日本酒の原料である米が麹菌の作用を受けた際に生成する糖質です。

本研究では、果糖が誘導する肝臓の脂質代謝異常や炎症に対するαーEGの作用を、実験動物を用いて調べた結果、αーEGの摂取は、果糖によって低下した肝臓の脂質分解を回復させることを示唆する興味深いデータが得られま

した。今回の成果をもとに、α-EGの持続的効果のさらなる検討や作用メカニズムの解明へと研究を展開する予定です。本研究の成果が、日本酒の消費回復や日本酒の文化継承を支えるきっかけの一つになることを期待しております。

最後になりましたが、本研究を実施するあたりご支援いただきました吉寄清己様に感謝申し上げます。

脳内神経ネットワーク構築メカニズムの解明 応用生命科学課程 橋本 美涼

私は2017年岐阜大学着任後、まず研究資金の獲得が非常に重要なステップであったため、本基金を頂くという非常に大きな有り難みを噛み締めております。応用生命科学課程に本基金制度を立ててくださいました吉寄清己様と関係者の皆様方に、厚く御礼申し上げます。

脳は、認知・行動・精神機能といった人間の様々な活動を担っており、全身臓器の中でも最も複雑と言われています。私は、この脳組織が発達段階にどのように構築されるのかという点に興味をもち、専門の動物生化学の視点でそれに取り組んでいます。本助成研究で、特に小脳の組織構築の仕組みを調べたところ、タンパク質分子の化学修飾「メ

チル化」が非常に重要であることが明らかとなりました。メチル化が不十分な子マウス脳では、脳細胞同士の接着や、細胞の増殖・生存といった組織構築の根幹を支える仕組みが損なわれることを発見しました。今後は本助成研究で得られた知見を基盤に、更に研究を展開させてゆく所存です。

C19 吉寄清己研究支援 寄附金の令和元年度受 領者

石田 秀治

昭和19年9月に農芸化学科を卒業された吉寄清己様の篤志により、平成19年度から「吉寄清己研究支援寄附金」として、応用生命科学課程教員の研究を支援して頂いています。ご遺族様から、ご逝去後もご援助を継続して頂けるといふ吉寄様のご遺志を伺い、本年度も本研究支援寄附金の受領者の選考を進めさせて頂きました。

本年度は、稲垣瑞穂准教授の「ヒト腸内細菌叢の代謝タイプのカタログ化」に、500,000円のご支援を頂くことになりました。先生には、吉寄様が望んでおられる「応用生命科学課程の名声を高める研究」に進進頂ければと思います。

支部会員からの便り

卒業後61年目の『岐山会』

岐山会とは昭和33年（1958）卒の本学農学部卒業生の会です。農学、林学、農芸化学、農業工学、獣医学、総合農学の6学科200名の会です。各務同窓会支部としては地域単位、学科単位が多いのですが学年単位の特徴があるため。今回、解散に当たり、その発足、活動の経過と特徴を報告させていただきます。

岐山会が発足したのは昭和60年、岡本憲一君（元機動建設株式会社副社長）の



指導力と凛真寮、瑞天寮など寮生が多く、学科間の相互交流が多かったことにあると思う。学年単位で集まることはクラスメイトが皆同じ方向に向かう（人工林的教育の）ことでなく、各々の学生の独立心に対応して相互研鑽する雑木林の努力強さが強みであったと思われる。

発足当時は150人の出席者で各学科の恩師を2、3人招いて盛大に開催したが先生方も退職され、学部名が変更され、次第に卒業生のみとなり、卒業後61年もとなった本年は25名と少なくなり、解散することになりました。会費残金を各務同窓会と本学部100周年記念事業基金に少額ながら寄付させていただきました。

会員の一端を紹介させていただきます。名誉会長である真鍋賢二君は16年間、参議院議員で、環境庁長官を務めた。同君は、「1995年にごみ処理場として計画した藤前干潟の埋め立てに對して、長官就任直後の1998年8月「鳥類、海洋生物保護の立場から埋め立てに反對する」と表明し、伊勢湾北部約89ヘクタールの干潟を保持し環境行政に、先鞭をつけた。吉田三郎元羽島市長は岐阜県の玄関としての羽島駅周辺開発に、杉山茂大野町長は柿とバラの街として全国7番目の豊かな町に築き上げた。

学生時代、クラブ活動の一環としてブラジル渡航会があり、ポルトガル語を学び、何人かがブラジル移民を果たした。

岐阜県高等学校支部

西 忠久君はカンピーナス市の東山農場の場長となり、『ブラジル新移民の人生』を刊行し、毎年の岐山会で寄せ書きを送り、交流に努めてきた。太田馨君は『元虫取り少年の人生旅』を刊行、平尾弘君は尺八の名手であり、吉野満君とともに会のたびごとに尺八を演じた。

農協、県庁、会社関係者の多くがトップクラスとなり、会のたびごとに相互に連絡しあっていた。奈良女子大学教授となった清水晃君は十津川の生物研究に集

申し、杉本勝之君は東京大学で斎藤義一君と共に学位を取得し、愛知県食品業界ばかりでなく、業界で知られる存在となり、大学の地域貢献に果たした功績は大きい。

尚、人生100年時代、岐山会は死すとも『岐山酒』としてその名が残ったことが喜ばしく、本学部100周年に夢と期待を膨らませながら、母校の伝統と発展を祈念してやまないものであります。

(岐山会大学連絡委員、杉山道雄)

村井 真 (E36)

いひとときを過ごすことができました。会の終盤には、恒例となっております岐阜県高等学校校歌と凜真寮歌を参加者全員で歌い、大学の更なる発展を祈りながら万歳三唱を行い、和やかな雰囲気の中で会を終えました。

岐阜県高等学校支部(各務会)は、岐阜県内の高校(農業科、理科)、県教育委員会、特別支援学校に勤務している者及び退職者で組織され総数は163名です。令和元年度総会・懇親会を6月22日(土)に岐阜市にあるグランヴェール岐山(加茂農林高校担当)で開催しました。会員24名が参加し、ご来賓として応用生物科学部 副学部長 向井譲先生、応用生物科学部 応用生命科学課程 課程長 石田秀治先生をお迎えし、大学の近況等についてお話を伺うことができました。

懇親会では、両先生と会員が学部の動向や昔話などを語り合い、有意義で楽し



計 報

昨年の会報99号以後、令和元年8月までに御逝去が確認された方々は、次のとおりです。
謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

農 学 科			農芸化学科			V大1		上中 孫右衛門		生物資源生産学科	
A10	板 垣	杲	C18	平 出	利 男	V大2	市 川	要		B大13	西 貴 詩
A15	天 池	正	C21	荒 木	正 男	V大3	近 藤	郁 夫		生産環境科学課程	
A18	黒 田	清	C22	上 野	良 光	V大5	佐 藤	三 郎		AE大2	岩 川 裕 之
A21	鈴 木	士 朗	C22・C大2	嵯 峨	孝 男	V大5	青木(横山)	泰彦		実務科	
A21	藤 村	良	C22	坂 井	保 信	V大11	鈴 木	貞		SP4	広 中 文 雄
A22	稲 田	勝 美	C22	柳 田	辰 巳	V大20	足 立	吉 数		農村工業実科	
A22	四宮(井村)	具視	C24	戸 莉	良 美	V大24	尾 家	玲 子		AT4	大 島 宣 夫
A24	桶田(八田)	義一	C25	桑 原	利 雄	V大34	井 上	育 生		AT5	望 月 星 稀
A24	田 中	清	C25	堀	鋭 雄	V大34	野 池	洋 行		AT7	永 田 和 三
A24	林	猛	C大1	川尻(上野田)	又秀	V大52	種 村	一 郎		農業専修科	
A24	平 岡	俊 彦	C大3	伊 藤	昇	V大55	近 藤	圭		SP17	平 澤 徹
A24	藤 川	有 三	C大3	川 島	拓 司	農業工学科				SP18	松 井 晋
A大9	熊 本	幹 夫	C大8	小 池	俊 治	E2	伊藤(橋本)	積		SP21	木 村 郁 夫
A大12	今 井	時 男	C大10	堀 田	文 彦	E2	山 口	新太郎		農村工業専修科	
A大20	中 川	良太郎	C大21	新 美	正 治	E3	土 屋	昭 司		ST21	豊 田 景 二
A大33	小 島	賢 治	C大37	天 野	仁	E4	山 本	洋 司		旧 教 員	
林 学 科			農産製造科			E5	高 木	弘		旧教員	上 田 雄 幹
F19	宮 地	永 一	M2	松 井	優	E6	後 藤	昭 夫		旧教員・C22	上 野 良 光
F大1	朝 原	亨	獣医学科			E大1	吉 澤	亮 二		旧教員	堀 津 浩 章
F大1	富 田	進	V1	竹 島	克 二	E大4	青 井	幸 雄			
F大4	西澤(坂井)	保夫	V2	堀	正 洋	E大7	井 村	実			
F大5	可 児	秋 呂	V3	加 藤	幸 雄	E大8	大 野	和 男			
F大6	今井田	正 光	V6	小 島	成 克	E大12	武 田	多喜雄			
F大7	小 川	哲 夫	V7	多 田	兼 成	家禽畜産学科					
F大9	大 脇	寿	V9	小 川	隆	P大3	谷 口	新 助			

上野良光先生を偲んで

本学名誉教授上野良光先生は、平成30年12月初旬にご逝去され家族葬が12月4日に行われたとの計報を、卒業生から2日後に知らされ、突然のことに言葉も見つかりませんでした。享年92歳でした。

先生は、岐阜大学の前身である岐阜農林専門学校農芸化学科をご卒業後、昭和24年に岐阜大学農学部助手に採用され、昭和38年の講師、昭和42年の助教授を経て、昭和48年から農芸化学科農産物利用学講座の教授として教育研究にご尽力され、多くの有為な学生を社会に送り出されました。昭和63年4月の改組で、生物資源利用学科の教授を併任されましたが、当該学科の学生が講座配属される前年の平成2年3月に退職されたので、先生が指導された学生は全て農芸化学科所属となります。この間、昭和61年から退職までの4年間は農学部附属農場長として、農場の再編・整備にご尽力されました。岐阜大学退職後の平成2年4月から平成12年3月までは、東海女子短期大学教授、副学長および学長を務められ、私学教育の振興にも力を注がれました。

先生の主たるご研究は、炭水化物の化学構造解析とそれらの利用に関するもので、特にナタネ菌核菌が生産する抗腫瘍性多糖であるスクレロタンの基本構造を世界で初めて世に紹介されました。また、学会活動では、日本農芸化学会、日本食品工業学会、日本栄養・食糧学会等の本部評議員を務められ、学会の活動と発展に貢献されました。

研究室の同窓会は2年ごとに開催されていますが、先生が最後に出席されたのは10年ほど前と記憶しており、その後は体調等もあり出席されることはありませんでした。私事ですが、先生には学部在籍時の卒論指導、ならびに岐阜大学へ赴任してからのご指導ご鞭撻を公私にわたっていただきました。ここに、生前のご厚情に対して心より感謝申し上げますとともに、皆様とともに先生のご冥福を心からお祈り申し上げたいと思います。

(山内 亮)

上田雄幹先生を偲んで

上田雄幹先生はかねて病氣療養中のところ平成三十年九月十二日八十八歳にて永眠されました。合掌

先生は国立公衆衛生院を定年退職後平成二年五月に獣医病理学教室の第四代教授として着任され、平成五年三月末日をもって定年退職され、その在任期間は三年と短い期間ではありません。

当時獣医診療業界からの要望の強かった外科病理診断を全国の獣医系大学に先駆け本格的に窓口を開かれ、地域貢献のみならずこれを学生の教育研究にも資されました。大学が外科病理診断をすることに当時の獣医病理業界からの反発は相当厳しいものがありました

が、上田先生は外科病理診断導入のために小職をアメリカのコーネル大学キング教授の下に一年間留学する機会を与えて下さいました。

教育研究面においては、三共から柳井徳磨先生を採用され当病理学教室では弱かった実験病理学や感染症病理学を導入強化され、酒井洋樹先生に引き継がれ今日の研

究室の礎を確固たるものにされました。

先生は退官に際し平成五年一月に最終講義として「出逢い」と題して、多数の教職員、学生、同窓生諸氏を前に先生の暖かい人柄をしのばせる中にも大いに研究に対するロマンを語られたことが、講義の中の勿忘草のスナップ写真とともに昨日のことのように思い出されます。

先生には退官後その幅広い経験と知識を生かされ北京で実験動物学の指導を二年間に亘って行われました。その後岐阜在職中に覚えられた探鳥などの趣味をされ悠々自適に東京でお過ごしになっておられました。

末筆になりましたが、心より上田先生のご冥福をお祈り申し上げます。

柵木利昭



堀津浩章先生を偲ぶ

平成29年7月19日に堀津先生が逝去されました。87歳でした。

岐阜大学農学部・応用生物科学部には昭和33年から平成6年まで在職され、堀津先生のご指導を受けたラボの卒業生は300名を超えております。

堀津先生は北海道小樽市ご出身で、小樽中学から北海道帝国大学予科に進学され、新制北海道大学農学部農芸化学科の第1回生として卒業されました。その後、大学院修士課程・博士課程に進まれ、昭和33年に修了されています。その時の学位論文は、青葉アルコールに関する天然物化学・合成化学的研究でした。これとともに、ビールの日光臭に関する研究にも取り組まれ、その成果は褐色ビール瓶の普及となり、我々は安定しておいしいビールを楽しめるようになりました。

堀津先生が、農学を目指したきっかけは、中学時代のいわゆる学徒動員、援農活動で、イネの開花のドラマを見たことだとおっしゃっております。さらに、その頃、北海道帝国大学理学部化学科に在籍されたお兄様から化学に関するお話を伺い、化学に興味を持ったと述懐されていました。したがって、農芸化学の領域に興味を持ったのは自然の成り行きであつたと思われます。

堀津先生は、博士課程修了後、直ちに本学に奉職されました。そして、岐阜大学への着任後は研究フィールドを天然物化学から応用微生物学に変更されております。その成果は、「*Candida utilis*」によるアルドペントースよりケトペントースへの変換酵素とその制御機構」と題してまとめられ、昭和45年度に日本農芸化学会奨励賞を受賞されております。

堀津先生は、「微生物屋は八百屋だ」とよくおっしゃっておりました。さらに、「何でも勉強だ」ともいわれておりました。微生物学の基礎的な学理から応用まで広く視野に入れて研究され、留学されたカナダのNational Research Councilではクエン酸発酵リアクターについて学ばれました。これが、帰国後のセラミックス固定化バイオリアクターの開発につながり、日本酒や醤油の速醸造の研究となつてゆきました。

農場長や学科長などの管理職でお忙しい中、日本農芸化学会評議員、日本生物工学会評議員、廃棄物学会編集委員などを歴任され、関連学会の発展にも大きく貢献されました。そして、一連の応用研究は、平成5年度の廃棄物学会有効賞と岐阜新聞大賞の受賞につながりました。

堀津先生は、ひょうひょうとしたシャイな性格で、博覧強記でありました。旧制帝国大学の雰囲気を残した方でした。クラシック音楽への造詣が深く、退官記念講義「来た径、行く路、菌の途」の最後はショパンの「別れの曲」で締めくくられ、心の豊かさや奥深さを感じた次第でした。なお、退官記念講義「来た径、行く路、菌の途」のDVDがありますので、ご希望の方は同窓会事務局までご連絡ください。

堀津先生のご冥福を祈りつつ、筆をおきます。

高見澤一裕

岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業

応用生物科学部長 杉山 誠

岐阜大学農学部は2023年をもちまして創立100周年の記念すべき年を迎えます。前身である岐阜高等農林学校が1923年12月に官制交付され、翌24年4月、現在の各務原市（旧稲葉郡那加村）に開設されました。1982年には岐阜市柳戸の現在のキャンパスに移転し、2004年4月、岐阜大学の法人化と同時に、応用生物科学部として新たな歩みを始め、現在に至っております。

少子高齢化社会、そして縮小社会と大学にとって大変厳しい時代を迎えています。一方で、本学部は高校生からの人気も高く、地域からの期待も大きいことから、地域への貢献を標榜する岐阜大学にあって、存在感をもって光り輝くことができています。これも、これまでの同窓生の皆様のご活躍の賜と深く感謝申し上げる次第です。記念すべき100年を機に、農学部から応用生物科学部へと歩んできた道を振り返り、さらなる前進と飛躍を期し、同窓生の皆様と慶びを分かち合うため、創立100周年記念事業会を発足し、4年後の100周年記念事業の内容を検討しているところです。

100周年記念事業として、記念式典・祝賀会の開催や記念誌の発行などを予定していますが、最も力を入れていきたいことは、各務同窓会各支部の活性化です。現在、各地域にあります支部では定期的に同窓会を開催し、会員相互の親睦が図られているなか、「参加者が減少している」「会員の高齢化が進んでいる」などの声が聞かれるようになりました。こうしたことから、100周年を契機に、各支部での活動を活発化できないかと考えています。支部活性化の具体的な方法については、今後検討してまいります。何卒この趣旨にご賛同いただき、募金という形で御支援をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

4年後になりますが、同窓生の皆様とともに農学部・応用生物科学部創立100周年をお祝いするとともに、これを契機に会員各位のより一層の交流が図られ、各地域での同窓会の活動が活発になりますことを期待しております。

■ 100周年記念事業内容(案) ■

1 記念式典等

開催日 2023年6月3日（土）
場 所 岐阜大学及び岐阜市内のホテル
内 容 講演会・植樹（大学）、
式典・祝賀会（ホテル）
備 考 会費制

2 記念誌の発行

3 支部活性化のための支援事業 等

■ 募 金 ■

記念事業を行うためには少なからぬ費用が必要であり、皆様からの募金に依存しなければならないのが事実です。何卒、諸事情御賢察いただき温かい御支援を賜りますよう発起人一同心よりお願い申し上げます。

1口2千円にて募金を募りますので、別添の振込用紙にて振込みいただきますようよろしくお願いいたします。

5口以上募金いただいた方には、記念誌の贈呈を予定しております。

■ ロゴマーク・キャッチフレーズの募集 ■

100周年記念事業を展開するに当たって、印刷物や記念式典など様々な場面で使われるロゴマークとキャッチフレーズを募集いたします。

＜募集要項＞

岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念であることが分かる、未発表のもので、100周年に向けた取組みをPRするのに適していること。

○応募期間

2019年11月1日から2020年4月30日

○決定・公表

100周年記念事業会役員会で決定し、2020年6月の代表者委員会で公表します。

100周年記念式典において、表彰を予定しております。

○応募方法

・応募は郵送もしくはメールでの受付となります。

・氏名、住所、電話番号の記載をお願いします。

・ロゴマークはカラー、単色は問いませんが、モノクロ印刷でも使えること。

・大きさは自由です。

・キャッチフレーズは、20文字程度以内とします。

○送付先

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学各務同窓会 事務局
TEL (058) 293-3411 E-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp

○著作権の取扱いについて

採用されたロゴマークおよびキャッチフレーズに係る一切の権利は、すべて岐阜大学各務同窓会に帰属することとします。採用されたロゴマークおよびキャッチフレーズは、岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業に関する各種印刷物や記念式典等において使用します。

○個人情報について

採用応募者の氏名等は、会報など各務同窓会関係の印刷物に記載しますが、それ以外の用途に使用いたしません。

あとがき

皆様には日頃から各務同窓会の活動にご協力頂き心より感謝申し上げます。

最初に皆様にお伝えすべきことは、2023年6月に学部創立100周年の節目を迎えるに当たり、記念事業のための募金活動が近々強化されることです。どうか皆様には絶大なるご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次に、各支部の今後の同窓会活動を継続していく上で参考になる現状と課題を述べます。

IoTやAIが普及し、我々は生活の大部分をスマホに頼っています。それに合わせて今後の社会生活も激変していくでしょう。岐阜大学においても名古屋大学と法人統合し、令和2年度から新しい東海国立大学機構がスタートします。

これからのデジタル時代に尊重されるのが、人間の心が通い合う「繋がり」です。まさに各務同窓会は、伝統ある岐阜大学農学部および応用生物科学部に根付いている心の繋がりの特徴です。これからは、「繋がり」を強化しながらデジタル時代に相応しい同窓会力を整備していく

必要があるでしょう。

一方で厳しい現実があります。いくつかの支部では、活動の継続が困難になっています。その原因は、会員の高齢化以外に、近年の卒業生は同窓会活動意欲が低く、先人達が築いてきた心の繋がりを引き継ぐ組織運営構造になっていないことがあります。

今の卒業生に農学科、林学科、農芸化学科、農業工学科、家禽畜産学科といったも親近感を感じません（獣医学科は別です）。

一方、年配の同窓生は、現在の応用生命科学課程や生産環境科学課程出身者と接しても、自分との繋がりを感ぜません。同窓生が支部会に参加して最も期待するのは、同じ学部の出身者というよりも、学科・課程・研究室繋がりでしよう。これまでの学部改組で、このような垂直的繋がりが薄められてしまいました。

そこで同窓会員の皆様にお伺いします。デジタル時代に相応しい新旧同窓生同士の繋がりを紡ぐにはどのような支部活動が望ましいのでしょうか。皆様の忌憚のないご意見を同窓会事務局にお寄せ下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

寄附金のお願いについて

平成20年から、始めました寄附金制度は趣意書にもありますように継続していきますので、本年度もご協力の程よろしくお願ひいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました2週間程あとに、応用生物科学部より、郵便局の振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

申込書の記入方法

* 申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
岐阜大学応用生物科学部学務係気付
岐阜大学各務同窓会事務局

第100号

令和元年11月30日

岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL (058) 293-3411 FAX (058) 293-2841
振替 00820-9-12742
<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/kagami/>
e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp

詳しくはこちらを確認してください。

別紙様式第1号

岐阜大学長 殿

寄附者 氏名 住所 氏名を記入し、押印してください。

住所 岐阜市柳戸1-1 (昭和 年 月 日)

氏名 氏名を記入し、押印してください。

(組織にあっては、組織名及び職・氏名を記載いたします。)

金額を記入してください。

1 寄附金額 円

2 寄附の目的及び条件

目 的 岐阜大学における学術研究費

条 件 なし

3 寄附金の名称 岐阜大学奨学寄附金

4 その他(主たる寄附金対象部署等) 応用生物科学部共通 (対応責任者: 職名 応用生物科学部長 氏名 杉山 誠)